

絶海の孤島

第 11 期 OG 並木 由美子

(旧姓 長澤)

絶海の孤島と言われてどこを思い浮かべますか？ Google 先生に聞いてみたところ、検索結果には「クリスマス島」、「南鳥島」、「青ヶ島」。予想外の結果でしたが、私の中では圧倒的に「イースター島でしょ！」ということで、昨年 5 月にイースター島に行ってきました。日本からアメリカロサンゼルス・チリの首都サンティアゴを経由して約 30 時間、色々トラブルもありましたが（ありすぎたので割愛します笑）、何とか行って見て驚いたことを書こうと思います（それ有名じゃない？ という方にはすみません）。

◆モアイの謎はすでに解明されていた！？

「大昔にあんなに大きくて重いものをどうやって運んだんだろう？」「なんであんなものを作ったんだろう？」モアイはだいたい謎に包まれていると勝手に思っていたが、ほぼすべて解明されています。イースター島内にある博物館で詳細に、そしてなんと日本語訳付きで解説があります。ちょっとだけ解説すると、モアイは山から切り出して作られ、木の台座に乗せられて運ばれたそうです。モアイはイースター島内に 1,000 体近くあり、うち立っているモアイはなんと 30 体しかありません。

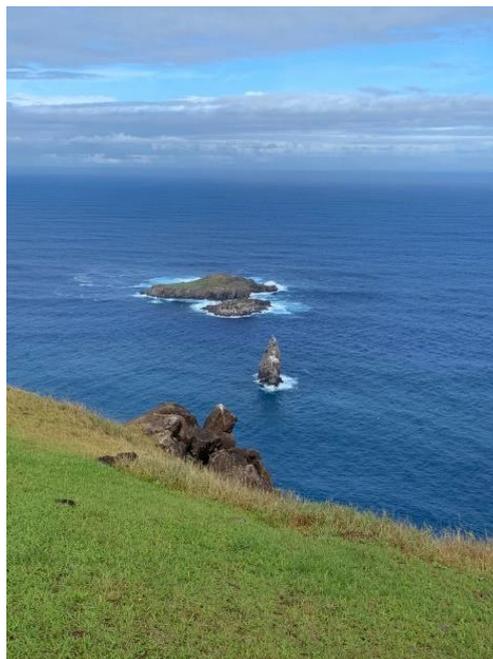
モアイはそれぞれの部族の象徴として作られたものだそうで、部族間の闘争（モアイ倒し戦争）によりほぼすべてが倒れてしまっています。モアイといえば海沿いにたくさん並んでいるモアイ（アフ・トンガリキ）を思いうかべる方も多いと思いますが、実は日本のタダノという建設クレーンの会社が立て直したのです。こんなところで日本とのつながりを感じられるなんて思ってもみなかったのも嬉しかったです。



アフ・トンガリキと著者

◆モアイよりやばい!? 鳥人崇拝

前述のモアイ倒し戦争によりモアイ崇拝は廃れることになり、古い神として祭られていた鳥を崇拝し始めます。そのため、その年の支配者を選ぶために鳥人儀礼が行われるようになったそうです。その内容がまさに壮絶。各部族の代表者1名がイースター島から2km離れた島（モトゥ・ヌイ島）に泳いで渡り、その年初めて産み落とされる鳥の卵を見つけて割らずにイースター島まで持って帰ればその年の支配者になれるという内容です。崖から数十メートル下の海に自力で降りて、サメがうじゃうじゃ泳ぐ海を2km泳ぎ、いつ産み落とされるかわからない卵を探して、また危険な道を帰るのです。そして最初に戻ってきた者が支配者となり、負けた部族の人間を食べたそうです…。これが1860年ころまで行われていたというのが本当に驚きでした。



イースター島からみたモトゥ・ヌイ島

というイースター島での2つの驚きを紹介させていただきました。この旅ではイースター島以外にもチリの首都サンティアゴとアタカマ砂漠にも行きました。実はイースター島よりアタカマ砂漠のほうが感動が大きく（笑）、写真で少しでも感動を紹介いたします。片道24時間と遠いですが、ぜひ皆様も行ってみてください！



アタカマ砂漠にある「月の谷」の雄大さに感動する著者